

2004年7月1日

「環境・社会報告書 2004」発行

住友林業株式会社（社長：矢野 龍 東京本社：東京都新宿区西新宿6丁目14番1号）は、当社の環境への取り組みとその具体的な成果をまとめた「環境・社会報告書 2004」を発行いたしました。環境報告書の発行は2001年度より開始し、今回で4回目となります。創業以来300年以上にわたり「森林経営」を通して培ってきた環境保全の思想のもとに、社会から期待される役割と責任を認識し、あらゆる事業領域で持続可能な経営に取り組む当社の姿勢をご覧ください。

本年度は、よりわかりやすい報告書をめざし、次の改善を行いました。環境・社会に対する企業の責任を意識し、報告書の名称を「環境・社会報告書」と致しました。持続可能性に関する当社の考え方と活動内容を冒頭で紹介するとともに、読者から頂いたアンケートの意見をもとに読みやすくする等の工夫をしています。また、2004年版から報告書の用紙として「間伐材印刷用紙」を採用しました。これは、間伐材利用促進の一環として開発され、再生古紙90%に間伐材パルプ10%を混ぜたもので間伐材マークの認定を受けています。

<環境・社会報告書概要>

- ・報告書対象期間 ：2003年4月～2004年3月
- ・報告対象 ：住友林業株式会社（一部グループ会社の活動も報告）
- ・主な内容

1. 持続可能な発展に向けて（報告書 P6～）

当社グループは、サステナブルな企業理念を原点に、企業の社会的責任を自覚した行動を展開しています。富士山植林・育林ボランティア活動の継続的運営、「お客様最優先」の実現にむけた活動など、最近の取り組み事例を紹介します。

2. 環境・社会性報告（報告書 P10～）

(1) グループ3社でISO14001認証取得（P14）

2003年9月、住友林業クレスト（株）、住友林業ツーバイフォー（株）の2社をISO14001認証範囲に組み入れました。また、海外ではニュージーランドのNPIL社（ネルソン・パイン・インダストリーズ）が2003年7月に認証取得しました。当社グループでは、ISO14001規格を基本とした環境管理システムを利用し、グリーン調達、資源リサイクル等環境に関する問題への対応をより効率的に推進していきます。

(2) 環境管理と日常業務を一体化（P14）

環境保全活動をより地に足のついた活動にするために、日常業務管理と環境管理を一体化することとし、2003年度は予算管理のしくみで環境管理を行う方法に改め、2004年度から運用を開始しました。

(3) 環境保全コストの把握（P17）

当社は環境経営の効果を客観的に把握し、経営にフィードバックするために、環境保全コストを算出するとともに効果を数値化し、「2001年環境報告書」より公表しています。2003年度の環境保全コストとして「建設廃棄物の削減・リサイクル」や「持続可能な森林の育成」などに4,935

百万円を計上しています。

(4) ODA植林無償事業を完工 (P20)

2000年11月から、インドネシア・スマトラ島のワイカンバス国立公園内の山火事跡地で開始したODA植林無償事業は、360ha、延べ613,000本の植林を終了し、2004年3月インドネシア政府林業省へ引き渡しを完了しました。育苗、植栽方法、植栽後のメンテナンスの技術を地元の人々へ受け継ぐとともに、山火事再発防止のために施設と消化機材の充実をはかり、国立公園を守る態勢と意識を築くことができました。

(5) 国産材の利用促進 (P21)

2003年5月、北海道社有林のカラマツを集成材に加工し、柱、梁、内装材に採用した住宅を札幌支店から限定発売しました。カラマツを採用した今回の住宅では、主要構造材における北海道産材の割合が78%に達し、今後も積極的に道産材を活用していく予定です。また、国産のスギ材を斜め45度に格子状に組んだ壁下地材「きづれパネル」を耐力壁に、ヒノキ集成材の「スーパー・サイプレス」を土台・柱に採用し、今まで余り利用されなかった端材や間伐材などの小径木も有効活用し、国産材の利用振興に寄与しています。

(6) 京都・醍醐寺シダレザクラのクローン バイオ増殖で初めて開花 (P24)

豊臣秀吉による醍醐の花見で有名な京都・醍醐寺のシダレザクラ「土牛(とぎゅう)の桜」。そのシダレザクラの組織培養を行い増殖した苗が順調に生育し、今春初めて開花しました。開花した花の色や形をオリジナルの「土牛(とぎゅう)の桜」と比較したところ全て一致していました。最新のバイオテクノロジーを活用し、絶滅の危機に瀕している種の保存に役立てていきます。

(7) 社有林が排出量を上回るCO₂を吸収 (P26)

当社が日本国内に所有する40,497haの社有林のCO₂吸収量は、2003年度には248,639t-CO₂に達しています。これは当社グループが国内の事業活動にともなって排出すると推定されるCO₂量の約2.9倍に相当します。

(8) 熱帯林再生プロジェクトを完了 (P33)

インドネシア共和国東カリマンタン州スブル地区において、1991年から「熱帯林再生プロジェクト」を実施し、2004年3月に完了しました。植林した樹種はフタバガキ科の樹木(ラワン)を中心としたもので、累計植栽面積503ha、累積植栽本数738,000本に及ぶ森林を再生することができました。

以上

<お問い合わせ先>

住友林業株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 佐野・佐藤

TEL 03-3214-2270

<メールでの環境報告書請求>

<https://sfc.jp/contact/form/shiryo.html>